

## ◆第42回地盤震動シンポジウム(2014)◆

### 東北地方太平洋沖地震後の想定巨大地震と予測地震動を考える

—巨大地震に備えるための地盤震動研究(その4)—

<主催> 日本建築学会構造委員会 振動運営委員会 地盤振動小委員会

昨年まで3回のシンポジウムを通して、2011年東北地方太平洋沖地震の実像を把握し、地盤震動研究の今後の課題を明らかにしてきた。一方、2011年東北地方太平洋沖地震以降、想定外をなくすという観点から、我々の経験したことのない巨大地震に対する地震動予測が行われるようになった。また、東北地方太平洋沖地震後に内陸地震が誘発されたことから、活断層による震源近傍の地震動も注目を浴びている。こういった地震に対する地震動予測結果は、時には、既往の知見を大きく超える値となり、計算結果の妥当性の評価が問題となる。したがって、予測地震動の有効活用を図る上では、地震動評価に使われている知見や手法の現時点における妥当性や限界、予測結果のばらつきについて考えておくことが必要と考える。今回のシンポジウムでは、東北地方太平洋沖地震から得られた知見の想定巨大地震への適用性、強震動計算手法の現時点での妥当性、予測地震動のばらつきについてご報告いただき、想定巨大地震に対する予測地震動の位置づけや設計への適用など、有効活用に向けた議論を行う。

日時：2014年11月18日(火) 10:00～

場所：建築会館ホール

内容(各講演の題目等は変更されることがあります)

司会：神野達夫(九州大学)・高井伸雄(北海道大学)

：久田嘉章(小委員会主査/工学院大学)

1. 主旨説明 10:00～10:15

2. 東北地方太平洋沖地震で得られた知見と地震動予測への適用性 10:15～12:15

2.1 2011年東北地方太平洋沖地震の強震記録の強震動評価への活用 : 佐藤智美(清水建設)

2.2 強震動予測レシピの現状と課題 : 三宅弘恵(東京大学)

2.3 海溝型巨大地震の予測地震動の現状と地震動レベルの比較 : 山本 優(大成建設)

2.4 表層地盤増幅特性と長時間地震動 : 関口 徹(千葉大学)

司会：川辺秀憲(京都大学)・大野 晋(東北大学)

3. 特別講演 13:15～14:00

強震動予測研究とともに—阪神・淡路大震災や東日本大震災などを経験して— : 釜江克宏(京都大学)

4. 震源近傍地震動の知見と地震動予測への適用性 14:00～14:30

内陸地殻内地震の強震動評価と震源近傍地震動 : 引間和人(東京電力)

5. 強震動予測手法の検証 14:30～16:00(途中休憩15分)

5.1 強震動予測のベンチマークテスト(1):数値計算手法 : 永野正行(東京理科大学)

5.2 強震動予測のベンチマークテスト(2):統計的グリーン関数法 : 加藤研一(小堀鐸二研究所)

5.3 断層モデル設定の不確かさによる応答スペクトル予測結果のばらつき : 引田智樹(鹿島建設)

6. 想定地震と地震動の現状 16:00～16:30

想定地震・強震動予測と設計用地震動 : 久田嘉章(前掲)

7. 総合討論「強震動予測の現状を踏まえ入力地震動をどう考えるか」 16:30～17:20

司会：植竹富一(東京電力)・小山 信(建築研究所)

8. まとめ 17:20～17:30

: 永野正行(前掲)

記録：津野靖士(鉄道総研)

定員：200名(当日会場先着順)

参加費：会員5000円、会員外8000円、学生3000円\*資料代3000円含む

問合せ：事務局研究事業グループ 伏見